「K」の系譜２　　日本のトップへ

★ 全日本インカレ　表彰台の常連へ

後藤乃毅は２年生でインカレ３位を獲得し、昨年は慶応義塾大学記録を更新。昨年は学生実業団対抗戦も優勝し、近年まれに見る短距離の活躍で大学も沸いていることだろう。
史上最高の国内１００ｍとなった、広島の日本選手権で１０秒２８ ４位。
日本代表４００ｍRメンバーまで手が届くところまできた。

★ 学生の３本柱　江里口､木村、後藤

毎年インターハイ優勝者が大学に進学してくるのだが、やはり順当にはいかないようだ。今大会も、２００７年総体覇者の小林選手、２００８年の本塩選手ともに結果を出せなかった。やはり高校時代のベストをインカレでポーンと更新・・・とは簡単にいかない。

このインカレでは、世界陸上メンバーに入った斎藤仁選手も１０秒４９準決勝で落選。日本選手権に強さを発揮する荒尾選手も１０秒５０で決勝を逃す。・・・やはり今の大学生は強い。このところ安定してファイナルに進出するのは木村選手とゴールデンエイジの江里口、後藤、我孫子選手らか。

特に１００ｍでは早稲田の木村、江里口、慶応の後藤は関東インカレ、全日本インカレ、日本選手権とビッグゲームは外さない。必ず「入賞」する。
学生を代表するトップ３であるといえる。

天皇賜杯　第78回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子 100m 決勝

風:+1.2

順位	ﾚｰﾝ	No.	氏名		所属	記録	ｺﾒﾝﾄ
1	3	275	江里口匡史	ｴﾘｸﾞﾁ ﾏｻｼ	早 大 熊 本	10.13	
2	6	276	木村慎太郎	ｷﾑﾗ ｼﾝﾀﾛｳ	早 大 奈 良	10.32	
3	5	119	後藤　乃毅	ｺﾞﾄｳ ﾀﾞｲｷ	慶 大 埼 玉	10.35	
4	1	793	小谷　優介	ｺﾀﾆ ﾕｳｽｹ	立 命 大 滋 賀	10.39	
5	4	310	安孫子充裕	ｱﾋﾞｺ ﾐﾂﾋﾛ	筑 波 大 山 形	10.41	
6	8	336	川面　聡大	ｶﾜﾂﾗ ｿｳﾀ	中 大 東 京	10.50	
7	7	415	内海　佑弥	ｳﾁｳﾐ ﾕｳﾔ	東 洋 大 山 口	10.52	
8	2	335	河合　元紀	ｶﾜｲ ｶﾞﾝｷ	中 大 大 阪	10.81	

関東インカレで１００ｍを勝った我孫子選手を抑えた。
記録的に上位３人が順当に表彰台に上がることになった。
しかし後藤はまったく満足してはいないようだった。
「走りも全然ダメです・・・」と安堵のコメントは全く聞かれなかった。

★優勝しか考えない。

後藤は、やはり勝負にかける意識の高さが尋常ではない。後藤均さんと同じように、トップしか目指さないというゆるぎない意志の強さを感じる。

後藤の１００ｍにかける意識
・ 優勝することが最優先
・ 様々なファクターに分析し、理想の動きに合致させること

中学３年生から全国のトップに座し続ける後藤。一見、口数少ないおだやかな風貌とは異なり、勝負にかける獣のような激しい闘志を持っている。
その意欲は揺るがない。迷わない。

彼が１５歳から強いのは、揺るがないからなのか・・・それとも強いから揺るがないのか・・・・

★ スーパー陸上へ

もちろん春高陸上部関係で初となる「スーパー陸上」出場。

日本陸上競技連盟の指名を受けた面々が、出場を許される。
ナショナルチームが認めた「現在の日本のトップ」である。

現在の男子４００ｍＲはメンバー候補がしのぎを削っている。
塚原、高平選手らはほぼ固定・・・ついで江里口選手。アンカーには末続選手が来期は戻ってくるのかな・・・と思われる。
ベルリンでアンカーを務めた藤光選手は、ロングスプリントへ移行しているようだし、補欠も含めたあと３人は今後の安定度で決まるであろう。

等々力で開催されるため、スーパー陸上での好記録は期待薄となった。
あくまでサッカー競技場の様相が強く、テレビ中継し易いスタジアムだ。
風が常に流れるわけでもなく、高速トラックでもない。
後藤が３年のときのインターハイ関東予選がここで開催されたが、南北ともに１００ｍでの好記録は生まれなかった。
ここは勝負に徹するしかないだろう。

日本選手権などで、男女とも好記録が生まれ、男子は世界で常に４００ｍＲメダルの期待がかかり、女子も１１秒３が２人揃って「よもや・・・」という過去に見られないほどの盛り上がりを見せていた。

男子の決勝レースが始まった

★ フライングで台無し・・・

来年からフライングは一度で失格・・・という厳格なルールに変更される。
高校生、中学生はこのルールは対象外だが、全世界的に施行される。
一見、厳しすぎるとも思われがちなこのルールだが、それを裏付ける出来事がスーパー陸上でも見られた。

優勝候補でない選手の意図的なフライングである。

悪意を持って上位選手の邪魔をしようとするこのフライング・・・記録を狙っている選手は少なからずダメージを受ける。全員が同じ条件なので、ボルト選手などは、それでも勝つのだろうが、ジャストタイミングでのスタートは切れていないだろう。
従って記録は全員が悪くなってしまう。

まったく迷惑な話だ。

このレースではあるアメリカ選手がそれをやってしまった。
選手紹介から落ち着き無く、バックスクリーンをきょろきょろ振り返り、ニヤニヤ笑っている。
ぐっと眼光を放ち集中しているタイソンゲイ選手とは雲泥の差だ。

案の定、やる気の無い明らかなフライング・・・・

日本選手とすればせっかくゲイ選手と走り、記録と国内での順位を勝ち取りたい大事なレースであったのに・・・
スタートと３０ｍまでの加速に重きをおく後藤も、想定内とはいえ崩されてしまったのは間違いなかろう。
本人は「フライングは関係ありません」というだろうが、真摯な態度をみせないアメリカ選手に私は不満が残った。

再スタートは切られた。

スーパー陸上　　１００m

決勝

順位	氏名	所属	記録
1	GAY,Tyson	USA	10.13
	ﾀｲｿﾝ･ｹﾞｲ	ｱﾒﾘｶ	
2	TSUKAHARA,Naoki	JPN	10.31
	塚原　直貴	富士通	
3	ERIGUCHI,Masashi	JPN	10.31
	江里口　匡史	早大	
4	EDWARDS,Monzav	USA	10.43
	ﾓﾝｻﾞﾊﾞｽ･ｴﾄﾞﾜｰｽ	ｱﾒﾘｶ	
5	ARAO,Shogo	JPN	10.53
	荒尾　将吾	福岡大	
6	SAITO,Hitoshi	JPN	10.57
	斎藤　仁志	筑波大	
7	GOTO,Daiki	JPN	10.58
	後藤　乃毅	慶大	

結果は後藤には残念なものであった。

全員やはり記録はとうてい望めなかった。
３日まえに上海で９秒６９をマークしたタイソンゲイをしても、この記録。
全員が自己記録＋０，３秒といった具合にきれいに揃ってしまった。

順番だけいえば、斎藤選手には勝ちたかったが、日本選手権の順位と変わらないくらいか・・・おっと、そんな甘い考えは後藤に叱られてしまう。
いまは次の「やるべきこと」に着手していることだろう。

おまけの話。

シーズンを終えたアメリカ選手、ヨーロッパ選手らがスーパー陸上に参加してくるのだが、ややもすると、なかばぶさけたような試合をする招待外国選手もいる。しかし、ロシアのレベデワ選手などは素晴らしい競技者だ。
各試技を集中し、雨が降っていても全力でアピールし、笑顔で応える。
「プロ」としてのサービス精神や、アピール姿勢は見習いたいものだ。

やはりその世界のトップであるという自覚は、「模範」になる。
一流選手は競技姿勢も一流だ。

★ 来シーズンは・・・

後藤は自己記録を１０秒２８まで伸ばした。しかも日本選手権の決勝で。
１０秒３ではいつでも走れる。
メジャータイトルでは必ず入賞、学生対抗は表彰台に・・・・

・・・が、こんなことで安心しているのは私だけだ。彼は常にＡ標準突破で日本選手権優勝！・・・これが目の前にある最低限の目標であることは間違いない。

学生最後の年になる来シーズンは、アジア大会がある。世界陸上はその翌年。
ロンドン五輪はさらにその翌年だ。

いずれにせよゴールデンエイジによる、日本代表争いは熾烈を極めていくのは間違いなさそうだ。そして後藤はその戦いに堂々挑み続ける。
ここ一番で発揮する強さ・・・それは彼の勝負に対するあくなき執念に賜物である。これからの３年間は、彼の人生をかけた走りが見られるだろう。

３７回　　野本　順一